

一、闘争方針

(イ) 中間ボギー車應援車掌廢止はやがて全ボギー車より應援車掌廢止の前提であり、大量犠牲の前提でもある。従つて此の問題は全従業員大衆の死活にも關する重要な闘争だ。斯かる前提と見透しの下に我々の闘争方針は、現在一局部の問題としての中間ボギー車應援車掌廢止反對闘争を全従業員大衆の闘争たらしめねばならぬ。

(ロ) 其のためには大衆に對して闘争の重要な意義をハッキリ認識させるため強力なる宣傳煽動がなされねばならぬ。(ハ) 大衆の闘争意識を高めるためには宣傳煽動と共に、日常職場内に於ける凡ゆる不平要求を捉えて、中間ボギー車應援車掌廢止反對闘争に結合させ、第二の更生案粉砕への發展の方向へ進まねばならぬ。

(ニ) 斯かる闘争への發展のためには、職場内に於けるアジ、プロは勿論集會、組會、總會等大衆的會合をドシドシ開かねばならぬ。

(ホ) 尚ビラ、ニュース等も支部独自の不平要求問題を捉えて、中間ボギー車闘争と結合せしめて出すこと

(ハ) 更に斯かる宣傳煽動と並行して現下の組合の分裂的危機を大衆の壓力によつて統一強化する様に、分裂反對統一強化への大衆的迫力を更に高め、全大衆の闘争として戦ふべく大衆の壓力を高めねばならぬ。

二、嘆願書提出
應援車掌廢止反對を基本として當面錦糸堀線に對しては手

七月一日よりの運轉に對しては乗務して戦ふ戦術をとつたのである。

しかし錦糸堀支部に於ては闘争委員會を組織し、毎日組會等を開き闘争の發展に備へたのだ。七月一日よりの運轉に對しては完全デーを以つて戦ひ、本部は全支部に通達して參觀デーの名により錦糸堀支部に極力動員して行動への壓力を高めんとしたのである。しかし本部は七月三日更に電氣局に對して手當二時間の支給を交渉したのである。此の手當要求問題に對しては勿論應援車掌廢止には反對ではあるが、しかし乍ら中間ボギー車問題が重大なる闘争にも拘はらず、未だ全大衆的問題たり得ず、しかも錦糸堀支部に於ては現に乗務し労働の強化を強要されつゝある、現實の従業員立場より要求したのであつた。又これは現に乗務しつゝある錦糸堀支部従業員の要求でもあつたのである。しかるに電氣局は此の手當二時間の要求に對しても、何等誠意の片鱗だも示さず即時拒絶したのである。

しかし本部は七日中央委員會を開き前記の如き方針を決定し、十日全闘争委員會を動員し『中間ボギー車の乗務者に對して一日二時間の手當を支給せられたし』の嘆願書を局長に提出したのである。

嘆願に對する回答は十二日なされたのであるが、局長は考慮の餘地なしとハッキリ拒絶した。此の嘆願拒絶に對し闘争委員會は飽く迄要求獲得に邁進することを決議し、十七日更に全闘争委員會によつて再嘆願を局長に提出した。再嘆願提出

當獲得を戦ふこと。
中央委員會の名により十日文書に依り嘆願書を提出すること。

三、闘争組織
本闘争を最も統一に又効果的に戦ふため闘争委員會を組織すること。

闘争委員會は電車部は各支部一名宛、非乗務部より一名宛自動車二名を各部、各支部に於て選出し、本部執行委員と合流して闘争委員會を組織すること。

第一回闘争委員會は十日午前十時より本部に於て開催する支部にも本部に準じて闘争組織を確立すること。

四、闘争基金
闘争基金は支部に於て適宜準備すること。
本部闘争基金は本闘争を勝利せしめるためにも不参加派に接して引續きをさせること。

(C) 嘆願書提出
中間ボギー車應援車掌廢止反對は臨時大會に於ても大會スローガンとなり、又錦糸堀支部の提案によつて大會に於ても萬場一致可決されたのである。本部は此の問題に對し六月二十二日労働課長及運輸課長と會見し、應援車掌廢止反對に對して交渉したのであるが電氣局は何處迄も強硬に七月一日より運轉する若し運轉して見て應援車掌がなくては運轉が出来ないと言ふことになればその時に考慮するの一點張りである本部は東交全體の情勢及錦糸堀支部の情勢に考へ審議の結果

に對しては錦糸堀支部は數十名を動員し毅然たる態度を示した。

(D) 回答……闘争打切り
しかし再嘆願に對する回答は七月二十七日午前十一時局長より全闘争委員會に對して左の如くなされた。

中間ボギー車の運轉に對しては既に支給することに發表した二十分に十分を増して三十分を支給す
但し右の回答に對しては左の條件を附す

一、中間ボギー車に三十分を支給したから單車にも同様に支給せよと云ふ様な、當局の弱みを捉えて、直に闘争を起す様なことはせざること

二、他線に配属される中間ボギー車が、現在の錦糸堀線に於ける乗客の程度より、少し位増しても、又増額を要求することは避けること、

以上の條件に對しては社會情勢の變化乃至は、事業の情勢により更に増額を要求することはある。更に我々は眞面目にやることは云ふ迄もないが、乗客が多くてやり切れぬ場合は新たに問題を取り擧げて交渉することを附言して引き擧げたのだ。

しかし直に本部に於て闘争委員會を開き回答に對する態度に就いて討議したのであるが闘争委員會は、回答には不満であるが、然し現下の本闘争に對する大衆闘争の至難なる情勢にかんがみ、錦糸堀線に對する中間ボギー車手當獲得闘争は、これを以つて一先づ打切ること決定したのである。